

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2009年6月）

発表日：2009年8月6日（木）

～ 一致C Iは3ヶ月連続上昇。「局面変化」への基調判断上方修正は8月分以降～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は3ヵ月連続で上昇

09年6月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.7ポイントとなり、3ヶ月連続で上昇した。輸出の増加や在庫調整の進展等を背景として一致C Iは09年3月をボトムとして上昇しており、景気が回復基調にあることが示されている。また、C I先行指数は前月差+2.9ポイントと、4ヶ月連続の上昇だった。上昇幅もかなり大きく、今後の景気を占う上で明るい材料である。C I先行指数は景気に半年程度先行すると言われるだけに、少なくとも年内については景気の回復基調が続く可能性が高まっていると言えるだろう。

○ 基調判断は現状維持。「局面変化」への上方修正は8月分以降

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「下げ止まりを示している」となり、5月分改訂値から判断が据え置かれた。内閣府が設定している基調判断は、「悪化」→「下げ止まり」→「局面変化」→「改善」の順番で上方修正されていくが、「下げ止まり」から「局面変化」へ上方修正されるための「7ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」という基準を今月は満たさなかったため、現状維持となった。7月分で「局面変化」へ上方修正されるためには前月差+6.4ポイントが必要であり、可能性はほとんどない。「局面変化」への上方修正は、早くも8月分の公表を待つ必要があるだろう。

なお、内閣府の定義によると、「下げ止まり」とは「景気後退の動きが下げ止まっている可能性が高いことを示す」、「局面変化」とは、「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す」とされている。

○ 訂正とお詫び

筆者が7月31日に作成した「景気動向指数（6月）の予測」というレポートでは、9月に公表される7月分で、基調判断が「下げ止まり」から「改善」に上方修正される可能性が高いと記述したが、その後内閣府に問い合わせたところ、その記述は誤りであることが判明した。内閣府によると、景気が後退から拡張へ移行する際には、必ず「局面変化」の判断を経る必要があり、「下げ止まり」から「改善」へ上方修正されることはないとのことである。また、仮に「原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が上昇した場合」という「改善」の基準を満たした場合でも、その前に、「7ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」という「局面変化」の基準を満たしていなければ、上方修正には該当せず、「下げ止まり」が維持されるとのことである。筆者の知識不足から、誤った内容のレポートを作成してしまい、大変申し訳ございませんでした。

